

心を開く、明るいあいさつ・元気な返事



親が率先してあいさつしましょう。



- あいさつは「心を開いて、相手との心の距離を縮める」の意味があり、人とかかわるきっかけです。コミュニケーションは、あいさつから始まります。
- あいさつは、する人もされる人も気持ちのよいものです。
- 「ハイ」という返事は、気持ちを前向きにします。



あいさつのしがた 7原則

- 自分から先にします。
- 相手の目を見てします。
- 笑顔でします。
- 相手の聞こえる大きさの声でします。
- ていねいなおじぎは、頭を下げ、腰を折ります。
- おじぎをした後、相手の顔を見ます。
- したり、しなかったりがないようにします。

～オアシス運動～

お…はようございます
あ…りがとうございます
し…つれいします
す…みません
4つの言葉を言い合いましょう



返事の 3 原則

- 名前を呼ばれたら、必ず「ハイ」と返事をします。
- 短く、はっきりと言います。
- 呼んだ相手の方を向いて言います。「ハーイ」と伸ばしたり「ハイ、ハイ」と2度返事をしたりしません。

心が表れる言葉づかい



人の心を傷つけたり、周りを不愉快にさせたりする言葉づかいをした時に注意をしましょう。

- T P O（時・場所・場合）をわきまえ、授業中などあらたまった場や相手に応じて、ていねいな言葉や敬語を使わせるようにしましょう。
- 子どもがその場にふさわしくない言葉や人を傷つける言葉をつかったら、必ずその場で正すようにしましょう。



ていねいな言葉づかい

- 言葉はゆっくり、はっきり言います。
- 「〇〇です。」と、語尾まで言います。
- 単語で終わらせないようにします。
（例）「先生、プリント」(×)
「先生、プリントをください。」(○)
- 公的な場所や年上の人に対しては敬語を使います。
（例） 言う → おっしゃる（尊敬語）
 申し上げる（謙譲語）
 申す（謙譲語・丁寧語）
 食べる → 召し上がる・上がる（尊敬語）
 いただく（謙譲語・丁寧語）



温かい言葉と冷たい言葉

<温かい言葉の例>

「ありがとう」「ごめんね」「よかったね」「がんばったね」「一緒に遊ぼう」「すごい！」
「だいじょうぶだよ」「ドンマイ！」「おいしいね」「どうしたの？」 など

<冷たい言葉の例>

「ばか」「キモイ」「ウザイ」「うるせえ」「向こうへ行け」「こんなこともできないの」
「〇〇だね（本人が気にしている体の特徴などを言う）」 など

一つの言葉で相手の心を温め、元気付けることができます。一方、一つの言葉で相手の心を傷つけ、悲しませることがあります。一度口をついて出た言葉は、取り返しがつきません。言う前によく考えることが大切です（メールも同じです）。

心持ちがわかる、姿勢・歩き方・クツの脱ぎ方



ゲーム機などを操作しながら歩かないように教えましょう。



- いわゆる「歩きスマホ」は、自分本位で他人に迷惑をかけるとともに、自分も事故に遭う危険性があります。大人も自粛することが大切です。
- 歩き方に、その人の心持ちが現れます。
- クツをそろえることは、心を整え、けじめのある行動につながります。



姿勢・歩き方・クツの脱ぎ方

< 姿勢 >

- 腰をしっかり立てます（腰骨を立てます）。
- 下腹を前の方に出し、両方のお尻をぐっと寄せるようにします。
- 「気をつけ」の姿勢は、下腹に力を入れ、背すじを伸ばします。



< 歩き方 >

- 音を立てて歩かないようにします。
- クツのかかとをつぶさないようにします。
- 携帯電話やゲーム機などを操作しながら歩かないようにします。

< クツの脱ぎ方 >

- クツを脱いだら、向きを変えてそろえます。
- クツが散らかっていたら、そろえるようにしましょう。

はきものをそろえる

はきものをそろえると心もそろう
心がそろうと、はきものもそろう
ぬぐときにそろえておくとはくときに
心がみだれない
だれかがみだしておいたらだまって
そろえておいてあげよう
そうすればきっと、世界中の人の心も
そろうでしょう

（この詩は、長野県篠ノ井町の藤本幸邦和尚が、永平寺の開祖である道元禅師の「脚下照顧」の教えを、分かり易い詩として表現されたものだそうです。）

場に応じたマナーやエチケット



周りに迷惑をかけないように、食事や公共のマナーを教えましょう。



- マナーやエチケットは、すべての人々が気持ちよく生活するためにあります。お互いに、場に応じたマナーやエチケットを守ることが大切です。



食事の場で

- 感謝を込めて「いただきます」と言います。
- 箸を正しく持ちます。
- きちんと座って、よい姿勢で食べます。
- よく噛んで食べます。
- ひじを付いて食べません。
- 食べ物が口の中にある時は、話しません。
- 食事中にふさわしくない話題を出しません。
- 食事中に他のこと（スマホやゲームなど）をしません。
- 感謝を込めて「ごちそうさまでした」と言います。



地域で

- ゴミのポイ捨てをしないようにします。
- 動物や草花を大切にします。
- 壁などに落書きをしません。



公共の場で

< 電車やバスの車中で >

- 騒がしくしません。
- リュックは背負わないでかかえます（混雑時）。
- お年寄りなどに席をゆずります。

< 図書館などの公共の施設で >

- きまりを守って、静かに利用します。

安全・安心を確保するルールやモラル



交通ルールや情報モラルを守ることの大切さを教えるようにしましょう。

- 被害者だけでなく、事故の加害者になる危険性もあります。交通ルールを守って、自分や他人の安全を守るようにしましょう。
- 大人が平気で赤信号を無視して横断している光景を見かけます。子どもは、どんな気持ちで大人を見ていることでしょうか。大人が範を示すとともに、ルールを守っている子どもたちを、社会全体で大事にしていきたいものです。
- 情報モラルとは、情報化社会を健全に生きていく上で必要な考えや態度です。特に子どもにとっては、いじめ、トラブル、依存等の「影」の部分についての正しい理解や対処法を身に付けることが大切です。



自転車の交通ルール

- ヘルメットをかぶります。
- 自転車の走行は車道が原則ですが、『13歳未満の子どもは「歩道」を走ってもよい』という例外規定がありますが歩行者優先です。安全のために、この時期の子どもは、歩道（車道側）や自転車専用道路を走るようにします。車道を走る時は、左側の端を走ります。
- 交差点や停車中の車の死角などでは、一時停止して安全を確かめます。
- 携帯電話やゲーム機を使いながら走ってはいけません。
- 二人乗りは禁止です。二人横に並んで走るのも同じです。
- 暗くなったら、必ずライトをつけるようにします。

※ 被害者だけでなく加害者になる危険性があります。
「自転車保険」に入ることをお勧めします。

<事事故事例>

自転車に乗っていた小学5年の男児が散歩中の女性と衝突。女性を寝たきり状態にさせてしまった小学生の親に「監督義務を果たしていない」として、裁判所は約9500万円の賠償を命じました。（2013年）



情報モラル

- ネットいじめ : 相手への悪口や不用意な言葉を書き込まないようにします。
- 不適切な動画等の投稿 : スマホ等で勝手に他人を写して投稿すると、肖像権の侵害に当たることがあります。
- 個人情報の発信 : ネット上に、個人を特定できるような情報を掲載しないようにします。様々な人に見られる可能性があり、その個人を危険にさらすことになります。



親とは？ 親として・・・



「親はどうあるべきか」を考えてみましょう。



そもそも、親とは…

- 一番身近にいて、豊かな愛情で子どもを包み、保護する人。
- 法律の上では…

父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努めるものとする。

「教育基本法 第10条（平成18年12月22日改正）」

思春期を迎えた子どもの親として

- 親への反抗は、自立への成長の過程です。
この時期の子どもの変化を肯定的に受け止めることにより、親にも心の余裕ができます。
- 「自分のことは自分で決めたい」という自己決定の欲求が強くなります。
指示・命令・禁止・干渉など、親が一方的に決めるのではなく、できるだけ子ども自身に決めさせるようにしましょう。自己決定は自己責任を伴い、将来の自立につながります。
- イライラ・モヤモヤの思春期の葛藤^{かっとう}で心が揺れ動く子どもは、ホッと安らぐ家庭を求めます。親の笑顔、家庭でのぬくもりが、子どもの心を癒し活力源になります。

子どもにとって、親は大事な存在です



「Nobody's Perfect」という言葉があります。子育てにおいて、完璧な親などいません。「子育ては、親育て」です。自分の子育てを振り返りながら、親自身が学んでいく前向きな姿こそ、子どもの心に届き、子どものやる気を育てます。

家庭教育の役割とは？



「子は親の鏡」を意識して、子どもに手本を示すことを心がけましょう。



家庭教育の3つの役割

- 1 基本的な生活習慣づくり
- 2 人とのかかわる力や社会性の育成
- 3 規範意識の育成



自立した社会人



親として心がけたいこと

● よい習慣は、一生の財産

子どもに「早寝・早起き・朝ごはん」などの生活習慣が身に付いていますか。改めるのに遅いということはありません。よい習慣は、一生の財産になります。

● 「聞き上手」「ほめ上手」「叱り上手」

親との対話や共通の体験がもちにくくなる年代です。そこで、「聞き上手」「ほめ上手」「叱り上手」を心がけましょう。

● 「子は親の鏡」「子は社会の鏡」

親をはじめ大人が率先してルールやマナーを守り、示すことによって、子どもの規範意識が高まります。また、自然体験やボランティアなど様々な活動を勧め、人とのかかわる力や社会性を伸ばしましょう。

家庭の日 毎月第一日曜日は「家庭の日」

品川区では、毎月第一日曜日を「家庭の日」と定め、「明るい家庭づくり運動」に取り組んでいます。

深めよう！ 親子の絆 考えよう！ 家族の関係

親同士のつながりが子育ての力に



子育ての悩みを共有できる仲間をつくってみましょう。



- 子どもの成長のうえで、友達の存在は必要不可欠です。同様に、親にも「子育て仲間」が必要です。悩みや心配事を気軽に相談できる仲間が身近にすることで、悩みを解消できたり、解決へのヒントを得られたりします。

仲間づくりのヒント

● 地域行事への参加

地域の子育て世代の人たちと積極的にかかわりをもつとよいでしょう。その機会や場として、地域行事があります。子どもと一緒に参加することにより、親子共々、仲間同士のつながりがもてるようになります。

● P T A活動等への参加

仲間をつくる絶好の機会です。「子どもの健やかな成長」という共通の目的をもって活動する仲間同士だからこそ、子育ての悩みも共有することができます。そして、それは子育ての大きな力になってくれるはずです。



P T Aとは？

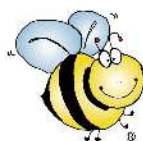
Parent Teacher Associationの略。

児童・生徒の健全な成長を図ることを目的に、保護者と教員により学校単位に組織された任意団体。

P T A活動は、自発的な奉仕意欲によって行われます。同年齢の子どもを持つ親は同じような経験をしたり、悩みを抱えたりしています。いろいろな方々の話を聞き、意見を交換することにより、親同士も信頼関係を築くことができます。

親としての成長の材料がP T A活動にはたくさんあります。

お互いに心がけたいこと



- 周囲の人たちとの交流をもち、「子育て仲間」をつくりましょう。
- 孤立した家庭や家族ができないように、声をかけ合いましょう。